

いなむら市長の

「ひと咲き まち咲き あまがさき」

4月25日(火) 放送分

放送時間 8:00～、12:45～、16:00～

再放送 4/27(木) 8:00～、12:45～、16:00～

4/29(土)、4/30(日) 17:00～

テーマ 「ソラ笑い」

(県立尼崎稲園高校放送部)

〈市長〉 皆さん、こんにちは。尼崎市長の稲村です。今回も、元気いっぱい、市内の高校生
の皆さんによる番組をお楽しみいただきましょう。それではさっそくスタートです。
どうぞ！

〈細原〉 いなむら市長の「ひと咲き まち咲き あまがさき」をお聴きの皆さん、こんにち
は！兵庫県立尼崎稲園高等学校放送部です。今回この番組を担当する3年の“まい
な”こと細原万愛奈と

〈若林〉 2年の“若”こと若林拓海です。

〈2人〉 よろしくおねがいします。

〈若林〉 さて、この番組は主に尼崎市内の高校の放送部がお送りしているとのことですが…
お聞きの皆さんは“高校の放送部の活動”というとどんなことを思い浮かべるでし
ょうか。

〈細原〉 お昼の放送とか、体育大会の時にアナウンスをしたり曲をかけたりとかでしょうか
ね？

〈若林〉 そうですね。そういうあるんですけどもなんっとも一番の活動が大会なんです
ね。その大会の部門の一つにラジオドラマというものがあります。

〈細原〉 部員が脚本を書いて、演じて、さらに編集をして、1つの作品を仕上げるんですね。

〈若林〉 そうなんです、今回こちらの番組では作ったラジオドラマを聞いていただこうか
なっと思っております。

細原：ちなみにタイトルは？

若林：タイトルは「ソラ笑い」です。

細原：「ソラ笑い」…。笑いは笑いですけど“ソラ”ってどういう意味なんですか？

若林：たとえばこう「ソラ耳」とかっていうと思うんですけど、「偽りの・うその」みたいなって意味がありまして。

細原：じゃあ、「ソラ笑い」って“作り笑い”みたいなものですかね？

若林：そうですね。

皆さんの周りにもいませんか？作り笑いしてんなみたいな人。

細原：なんか明らかに目が笑っていない、特に女子高生の場合は、多いようなイメージがありますね。

若林：そんな人も身近にいるかもしれませんね。

それでは、まず、ラジオドラマ「ソラ笑い」お聴きください。

～ラジオドラマ「ソラ笑い」～

【A´は心の声】

<笑い声>

<A´> こうやって人の顔色をうかがいながら笑うんだ。本当は意味ないことだって自分でも分かっているけど分かってるけどでもそれども…

 私今日のお昼サンドイッチなんだ！

<A> いいないいな私も食べたーい

ってあれ？昨日も食べてなかったかっけ？気のせいかな？

<C> っていうかさ英語の小テスト明日とかやべーよな。全然勉強してねーよ。

<A> あれ？でもこないだ満点取ってなかったっけ？本当は絶対勉強してるよわたしなんか単語帳触ってもいないくらいなのに

<C> でもお前なんかもうバッチリだもんな。

<A> ううん全然やってないよーもうどうしよう

<A´> ほんとどうしようって感じ

こうして私は作り笑いするおかしくてもおかしくなくてもこうやって笑っていれば相手を傷つけてしまったり浮いたりひきつらないはず。だよねだいじょうぶだよな。

<D> そういやお前いつも笑っているよな

<E> ねーいつでもにこにこしててさー

<A> ほんと！うふふ嬉しいありがとう

<A´> よかったー私ちゃんと浮かずにみんなについていけてるみたい

<足音>

<A´> えっとコーラとジンジャエールとミルクティーでよかったよね。はあー自販機遠いなあ。絶対みんな待ってるなあ。急いで帰らなきゃ。わあ！

〈ぶつかる音〉

〈A〉 いたたたー

〈F〉 誰かと思ったじゃない。もう

〈A〉 あっごめん。じゃあわたし急いでるから。

〈F〉 ちょっと待ちなさいよ。あーんたまたあいつらにあわせてヘラヘラしてるでしょ。いい加減やめたらそういう媚び得るようなのさー

〈A〉 えっそんなことないよ。みんな優しくしてくれるよ。

〈F〉 そんな自分じゃ疲れるでしょ。正直見てらんないよ。無理してるって感じ超するし。その飲み物だって要はパシリさせられてんじゃん。もうやめときなよ。

〈A〉 ごめん！ホントに急いでるから！

〈F〉 あっちょっと

〈A´〉 自分が無理してるってことぐらい自分が一番わかってるよ。仕方ないじゃん。でもでもみんなは私のこと認めてくれるはずだもん。味方でいてくれるはずだもん。そうだよな？私たち友達だよな？

〈D〉 おはよう

〈C〉 おはよ

〈A〉 おはよー

〈D〉 どうかした。なんかあった。

〈A〉 えっ!?

〈C〉 いやいつもは朝からにこにこしてるのに今日は違うねーと思ってさ。

〈D〉 言われてみれば確かにどうかしたか？

〈A〉 なっなんでもないよ。今日の小テスト...そう小テストがちょっと心配だっただけそれだけ。

〈A´〉 いけない。私ちゃんと笑えてなかった。まずいなー、でもそうだよな、そうだよな私はずっとみんなに合わせて愛想を振りまいてなきゃいけないんだ。そうしないと私は絶対受け入れてもらえない。だからこのまままた笑顔をつくらなきゃ。

〈D〉 はあー今日も一日終わったー。なあなあカラオケよってこうぜ。

〈B〉 いいねいいね。カラオケ行く人？はーい！

〈A´〉 どうしよう。カラオケかー今月お金使いすぎて厳しいんだよねー。でも断れないし

〈A〉 うん私も行く！

〈F〉 盛り上がってるとこ悪いんだけどちょっといい？私この子に用があるの。

〈D〉 そっか、じゃあ俺ら先帰るわまたな！

〈B〉 ばいばーい

〈A〉 まって私も行くのに...えっと何の話？私行かなきゃいけないんだけど。

〈F〉 前にも言ったけどあんた無理してるでしょ。嫌われないようにずっと相手の機嫌をうかがって興味ない話にも無理して合わせて、今だって行きたくもないカラオケにまでついていこうとして。

〈A〉 何が言いたいの？

〈F〉自分を偽ってまで相手に合わせて、あんた見ててとっても惨めっていうか可哀想よ。
〈A〉なによあんたに何がわかるっていうのよ誰に何を言われたってやめない私がクラスで生きていくためにはこうするしかないんだから
〈F〉もっと普通の自分でいられるような人と付き合えばいいんじゃない！
〈A〉いや！私はあの子たちの友達でいたいんだから、
〈F〉無理して合わせて付き合うのが友達？クラスの目立つにぎやかな人たちと自分は友達なんだってそんなことがあんたのプライドなの？そんなのおかしいわ、今のあんたは本当のあんたじゃない
〈A〉ほっといてよ！ええそうよグループのみんなに嫌われるのが怖いわよ。だから！だから！取り繕って媚を売っていいように見えるように演じてるの悪い？私はこれで満足してるわ。
〈F〉あんたホントにおかしくなっちゃうよ。まあでも仲間外れにされる恐怖より、媚を売ってる苦しみの方がまだマシってことね。別にあんたの自由だけどさ。どうふるまおうが、でもさ、まあいいけど。

細原：…というわけで、この先主人公はどうなっていくのやら…って感じで完結はさせてないんですが、いかがでしたか？

若林：ここまで、あからさまに作り笑いをしてる人はいないかもしれませんが、共感してもらえたんじゃなかったかなって思っておりますが。

細原：いそうですね。でも若はこの脚本を書いたわけですけど、そもそも何でこのお話を書こうと思いましたか？

若林：もともとは僕自身が、失敗したりだとか、あと怒られたときに笑ってごまかすような癖がありまして、そこからどんどん、想像を膨らませたりだとかして今の主人公ができましたね。

細原：なるほどね～。おかしくて笑うじゃなくてその場その場でごまかして笑ってって感じか

若林：割り切っちゃおみたいなの、うん、まいなさんには、主人公、仮にエミちゃんとしめますけど、エミちゃんを演じてもらったんですけど、どうでしたか？

細原：う～ん…私自身が作り笑いをして過ごしているわけではないのでここまでするのはなんでだろうって思っていたりとか、エミちゃんの全ての行動に共感できるか、といわれたらうーんちょっとできないかなあって。

ただ、エミちゃんみたいに作り笑いしてる子とかはいるんじゃないかなとはおもうんですけど…。

若林：なるほど…。実はこのラジオドラマ、オチが2つあるんです。

細原：1 つ目のオチは、エミちゃんが作り笑いをやめてグループを抜ける…っという終わり方ですね。

若林：そうですね。やっぱりしばらくは、孤立しちゃうそうですね。

細原：でも劇中でエミちゃんに意見してきた子…まあ仮にアオちゃんとしませんか。アオちゃんのグループに入れてもらえるかもしれませんね。

若林：おせっかいというか世話焼きでいてくれるから、なんだかんだで気にかけてくれそうですね。

細原：作り笑いなんかしなくても、素の自分でいられる人たちと仲良くなるっていうパターンですね。

若林：まあ簡単ではないんですけど。

細原：そうですね。うまくいくまでに結構時間がかかってしまいそうですね

若林：そして、2つ目のオチは、エミちゃんが今後も作り笑いを続けていく…っていうパターンですね。

細原：アオちゃんに言われたことっていうのは、凶星ですし、言われるまでもないですけども、でも作り笑いはやめられないでしょうね。

若林：そうしないと絶対、受け入れてもらえないってくらいに、こうなんでしょう

細原：笑って人に合わせることに執着してしまっている感じですね。

若林：昔何かあったのかなって思わせるようなことを言ってまして。

細原：たとえば、根暗だって理由で距離をおかれてしまったとか。

若林：とか人間関係でトラブルがあったとか…。

細原：そんな過去のトラウマから、今は明るくふるまおうとしてはいますけど、ちょっと空回りしちゃって、

若林：みじめとか言われたり見ててかわいそうといわれてしまったりですねー。

細原：それと、もう1つ、アオちゃんも言ってましたけど、エミちゃんはクラスの中心のグループにいることにこだわってましたよね。

若林：目立つ人とずっと一緒に居たい、みたいな…。

細原：いわゆるスクールカーストってヤツですね。

若林：うちの学校では、そんなに感じたことはないですけど小中学校では結構歴然とあったのかなと。

細原：話し合いの時とかに中心グループの意見が尊重されるとか。

若林：あーありましたね。あと、声の大きい人の意見に誰も反論しないみたいな、そのまま決まっていくみたいなのもありましたよね。

細原：うーんなるほどこの作品のオチって二つともありそうですね。でも主人公このままだとかわいそうなので。

若林：何とかしてあげたいんですけど。

細原：いい感じにハッピーエンドに。

若林：やっぱりこうほんとのハッピーエンドって言うのはエミちゃんが素のままの本当の自分のままでクラスの中心グループにいられることだとは思いますが。

細原：だからどっちのオチも、正直本当に幸せになれるか、って言われると微妙ですよ～。

若林：このラジオドラマの続きは人によって違うと思います。

是非、あなたにとっての最良のオチを考えてみてください。

細原：ということで、時間も来たようです。

この放送は、尼崎稲園高校放送部の“まいな”こと細原万愛奈と

若林：“若”こと若林拓海でお送りしました。

2人：ありがとうございました。

〈市長〉いかがでしたか？ それでは、次回の放送もお楽しみに！

以 上